

令和7年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学 校 名	校 長 名
103	川崎市立 金程小学校	芦刈 竜哉

学 校 教 育 目 標		今年度の重点目標	
自分のよさを伸ばし、共に支え合い、よりよい社会を創造する 学び続ける子どもの育成		・知 わかる授業の充実 ・徳 心の教育の充実 ・体 健やかな体の育成 ・地域愛 実践的な活動の充実	- 主体的に考える子ども - 共に支え合う子ども - 健康を意識して活動する子ども - 地域と共に育つ子ども
	具 体 的 な 取 組	成 果 と 課 題	具 体 的 な 改 善 策
1	教育課程 (カリキュラムマネジメント) (GIGA)	・算数のTT指導により、児童の実態把握や個に応じた指導の充実につながった。 ・算数専科の導入により、5、6年生においてきめ細やかな授業を行うことができた。 ・学習の理解や定着に困難を抱える児童への、より一層の支援の必要性が明確になった。 ・生活科・総合的な学習を中心に地域に目を向けることで、児童が地域を身近に感じられるようになってきた。 ・今後は、GIGA端末の効果的な活用方法について、さらに検証を進める必要がある。	・専科教員による指導体制をさらに充実させ、学級担任と連携を一層深める。 ・全学年において児童へのきめ細やかな指導を行い、1、2年生のTT指導と3、4年生の少人数指導を継続充実させる。また、高学年の算数専科教員と学級担任による連携をさらに強化した指導体制を整える。 ・生活科・総合的な学習で地域に目を向ける機会を計画的に設定し、年間指導計画等に位置づける。 ・GIGA端末の活用事例を共有し、次年度の授業改善に生かしていく。
2	校内研究・研修 (生活科・総合的な学習)	・児童が主体的に考え、学習に取り組む姿が見られるようになってきた。 ・地域をより身近に捉え、興味・関心をもって学習に臨む姿勢が育ってきた。 ・学習の中で友達考えに触れ、受け止めたり広げたりする場面が増え、自分の考えにとどまらない学びの広がりや深まりが見られた。	・児童がより主体的に取り組めるカリキュラムの作成のさらなる充実を図る。 ・地域の自然や人材を教材として扱う計画的な授業を進める。 ・語彙を増やし、よりよい話型を価値づけながら、思考を深める指導を継続する。 ・多様な考えを認め合い、自分の考えを深めていく授業づくりを今後も推進する。
3	児童理解の実践 (児童理解) (児童指導)	・支援教育Coを中心とした児童支援体制を継続した。 ・共生・共育プログラム、人権週間、生活アンケート、人権に関する授業などを通して人権意識の向上を図った。 ・教職員のいじめに対する感度を高め、未然防止や早期発見、早期対応に努めた。 ・SOSの出し方に関する授業や受け止め方の授業を実施した。	・支援教育Coを中心に引き続き児童支援体制の充実を図り、学校としての対応を迅速に行う。 ・具体的な児童支援に関する研修や、人権への意識を高めるための研修に今後も取り組む。 ・個に応じた支援が必要な児童が増えており、ネットワーク型の支援体制をより効果的に進めるための取組を、今後も全職員で共通理解しながら行っていく。 ・児童指導や支援の問題については、外部機関との連携を図る。 ・教職員が児童の特性を理解し、その子に合った言動・対応ができるような研修を行う。 ・健康教育や性に関する教育の見直しを進める必要がある。
4	健康教育 (保健管理) (食育・アレルギー対応)	・日頃から様々な怪我や事故の未然防止、感染症予防対策などについて、養護教諭が中心となって職員への共通理解を図り、保護者への周知にも努めた。 ・特に感染症予防対策については、校医と相談しながら進めたことが、保護者への理解につながった。 ・アレルギー対応が必要な児童が増えたが、栄養士や養護教諭が中心となり、校医や専門医とも連携しながら、全職員で危機管理に対する意識を高めることができた。また、改善点が見つかった時はすぐに対応策を検討し、柔軟に変更した。	・児童の健康状態を細かく把握し、保護者、関係職員の連携を密にして対応する。 ・心の健康など引き続き支援教育Coや養護教諭との連携を図り、個に応じた支援を行っていく。必要に応じて医療機関等との連携も図る。 ・今後も感染症に関わるガイドラインについて、常に職員に周知を図り、学習や行事の計画などを安全に行うように心がける。学校で判断することが難しい場合、校医の助言を必要に応じて得る。 ・今まで以上にアレルギー対応について全教職員で共通認識できるようにする。

5	特別支援 (支援教育)	・児童の情報収集、実態把握、個別の指導計画の作成を行った。 ・各種専門機関との連携(特別支援学校、総合教育センター、地域療育センター、通級指導教室等)を図った。 ・学級担任と交流級担任との綿密な連携に努めた。	・特別支援学級担任がチームとして指導にあたることができた。また、できる限り非常勤やサポーターなどがついて、安全の配慮を行った。しかし、常に1対1対応が必要な児童が複数名いるため、人的配置に苦慮した。 ・特別支援級以外にも個別の支援が必要な児童が増えて、一人一人の対応の仕方が異なるため、十分な支援を行うことが難しかった。	・特別支援学校の地域支援担当や通級指導教室のセンター的機能の協力により、児童の見取りや支援の方法についての指導力向上に努める。 ・児童の抱えている問題について、家庭と連絡を密にしながら情報を共有し、必要に応じて医療機関や特別支援教育センター等との連携を図る。 ・児童支援部会、職員会などで児童理解を深め、全職員で児童を指導していく体制を整える。
6	教育相談 (保護者・地域住民等との連携)	・支援教育Coやカウンセラーの役割について広報し、どんな場合に相談や活用ができるのかを周知した。 ・学校行事や授業参観、コミュニティスクール会議等でアンケートを実施したり話し合いの機会をもったりし、地域や保護者の声に積極的に耳を傾けた。 ・学習活動を通し、保護者や地域との連携を深めた。	・様々な問題に学年、支援教育Co、養護教諭などがチームで対応し、教育相談も必要に応じた形で行った。カウンセラーやSSW、地域見守り支援センター等とも連携し、児童や保護者の悩みの解決に向けて取り組んだ。 ・地域の教育力を生かしていることを、学校だより等で保護者にその都度伝えてきた。児童が地域の方への感謝や親しみの気持ちをもつことができた。	・支援教育Coの役割が周知され、児童や保護者が相談しやすくなってきている。さらにカウンセラーや相談機関の紹介などを積極的に行い、どのようなことでも相談しやすい体制づくりに努める。 ・学校行事や授業参観等を通して保護者が学校に来る機会を増やし、保護者からの意見を今後の学校運営に生かしていく。 ・地域行事への参加や地域人材との関わりを継続していく。
7	防災・防犯指導 (安全管理・情報発信)	・具体的な自然災害等を考慮に入れた避難訓練・防災引き取り訓練、交通安全指導等を実施した。 ・情報モラルについての授業を計画的に行った。 ・メール配信等で情報発信を行った。 ・安全の見守りについて、保護者や地域への協力をお願いした。	・様々な状況を想定した訓練を行った。教職員も児童も、指示がなくても避難行動ができるようにしていきたい。 ・不審者が校内に入り込んだ時の対応を全職員で行うことで、適切な対応の仕方を学んだ。 ・登下校時のけがが多く、その都度全校に安全指導を行ってきた ・情報モラル教育では、外部講師を呼んだり、授業参観時に行ったりすることで保護者への啓発ができた。家庭と学校で情報モラルを児童に伝えることができた。	・今後も様々な状況を想定し、訓練の内容を充実させる。 ・見守りについて、地域や保護者との連携をさらに進めていく。 ・情報モラルについて、外部講師と連携し、今後も系統的な指導を行っていく。また、今後も保護者に情報モラルの授業参観の機会を設け、家庭でのルールの徹底を意識させていく。 ・情報モラルの指導では、学校だけの指導では限界がある。今まで以上に保護者と連携が必要。
8	教育環境整備 (安全点検・栽培活動)	・月一回の安全点検に基づき、迅速に補修を行った。 ・危険箇所については教育委員会へ連絡し、早急の改善に努めた。 ・地域の学習協力者に、栽培活動や安全マップづくりへの協力をお願いした。	・危険箇所の迅速な修理により児童の安全確保できた。 ・工事が必要なことについては、教育委員会にその都度連絡をして修理を要請している。 ・地域の協力を得て、年間を通して野菜や米作りなどの学習活動を行うことができた。一方見直しが必要なものに関しては、地域と話し合いながら進めた。	・工事が必要な危険箇所については、引き続き教育環境整備推進室と連絡をとり、早急な対応をお願いしていく。 ・児童が主体的に栽培できるような学習計画の見直しを進める。今後も地域と連携しながら、学習内容に沿った栽培活動を行っていく。 ・地域の安全マップ作りも、地域のパトロール隊の方々の協力をいただきながら今後も進めていきたい。
9	運営機構 (組織運営)	・コミュニティスクール会議、金程中学校区学校運営協議会において、学校の現状と課題について検討した。 ・会議の精選や伝達方法の工夫により働き方改革に取り組んだ。 ・教職員が仕事や様々な問題を一人で抱え込むことのないよう、風通しのよい職場づくりに努めた。特に、管理職は話しやすい雰囲気づくりを心がけた。	・コミュニティ委員の方々に授業参観をしていただき、金程小の児童のよさや課題について、教職員とともに話し合うことができた。 ・心理的に不安定であるなど、個別に対応する必要がある児童が増え、勤務時間外の面談やケース会議を行わざるを得ない場合がある。 ・校務、会議の見直しにより子どもと向き合う時間が以前よりとれるようになってきたり、教材研究の時間を確保したりできるようになってきた。	・小規模校ということもあり、個々の教職員の力をどう効率的に割り振るかはとても重要である。学校の重点課題を整理して学校運営機構の構築を図る。 ・ミドルリーダー・学年主任の育成に力を入れ、それぞれが責任をもって仕事に取り組めるように助言する。 ・教職員の健康を守るため、休みたいときに休めるような協力体制をつくる。業務の見直しを行い、相談しやすく安心して働ける職場づくりを今後も目指す。 ・教職員同士や保護者との連携を日頃から密にしていく。 ・教職員自身、日ごろから心身に気を配り、業務に専念できるようなさらなる環境づくりが必要である。
学校関係者の評価			学校運営のまとめ	
本校はコミュニティスクールとしての実績があり、児童は地域の方と触れ合う機会が多いことから、地域に愛着をもっている。保護者、児童のアンケート結果からも地域に関心をもって日々過ごしていることがうかがえる。地域を大切に、地域と共に育ってほしいという願いがある。児童の課題として、自分の思いや言い伝えを相手に伝えることに苦手意識のある児童が多いこと、失敗を恐れ積極的になれないこと、マイナスの経験に弱く傷つきやすいことなどなどがあげられる。また、よく知っている人にはあいさつはできるが学校内ですれ違った大人にはなかなか挨拶をすることができていない。少しでも顔見知り、学校内にいる人には積極的に挨拶をしてほしい。学習面においても多くの人と関わり、交流することで様々な意見があることを知り、自分の考えをさらに広め、深めることができればと考える。そのためにも、学校と地域が協力していくことが大切である。また、町内会主催の行事として1月に行われるどんと焼きがある。町内会、学校、PTAが協力して毎年盛大に行われている。そこに多くの子ども達も関わっている。学校を中心に各団体が協力して子ども達の健やかな成長を見守りたい。また、地域へ愛着をもち、地域に貢献する大人に育ってくれればと思う。			本校で目指す子どもの姿は、①主体的に考える子ども②共に支え合う子ども③自分から行動する子ども④地域と共に育つ子ども となる。これらを全ての教育活動を通して実現できるように取り組んでいる。 「主体的に考える子ども」については、系統的に対話をする力をつけたことで、対話を通して学び合う姿が見られるようになってきた。今後はさらに、多様な考えを通して自分の考えを広げたり深めたりしながら思考し、考えを構築していくことができるようにしたい。そのための力を段階的につけていくことができるよう授業研究に取り組んでいきたい。 「共に支え合う子ども」については、「いじめが起きない環境、いじめを許さない指導」について、教職員が人権意識を高めると共に、いじめに関する年3回の授業や人権に関する授業を公開して、児童にも授業を公開して、児童が人とのよりよい関わり方ができるように努めてきた。これからも児童理解に努めるとともに、家庭との協力や他機関との連携を今後も丁寧に行っていききたい。 「自分から行動する子ども」については、毎年教職員や地域の方から挙げる「子ども達のたくましさを伸ばす教育」として、人任せにせず自分で自分の行動を判断し実行することができるようにしたい。そのために、行事や委員会活動、異学年交流など、児童の創意工夫が生かせる場で、児童の自己有用感、達成感を味わわせて自信をつけ、困難を乗り越える力を育んでいきたいと考える。また、本校は生活科・総合的な学習を研究している。その学習の中で、自分で課題を見つける力、課題を解決する力を一層養っていききたい。 「地域と共に育つ子ども」については、カリキュラムの中に地域素材を取り入れ、計画的に学習を行っていきたいと考える。 次年度は、キーププロジェクト「探究的な学びの充実」のモデル校になった。総合教育センター、教育委員会と知恵と力を合わせて、市内小学校へより良い成果を伝えらるようになっていきたい。	

